

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
5	1	4	土地改良費	282

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	土地改良
事業目的	土地改良施設の維持管理、施設改修及び耐震対策を行うことにより、耕作に必要不可欠な水を確保し、農地を洪水や湛水から守る。
事業内容	<p>●事業の全体計画 ○耕作に必要不可欠な水を確保し、農地を洪水や湛水から守るため、土地改良施設の改修及び耐震対策を行う</p> <p>●主な事業内容 ○土地改良（排水）事務 ・土地改良排水施設及びため池の管理事務 ○土地改良施設改修 ・緊急農地防災事業（県費） 成沢川地区 ・単独土地改良事業（県費） 亀割大池地区、五郎丸地区、楽田地区 ・愛知県土地改良事業団体連合会負担金 ・愛知県が行う防災ダム事業等の一部負担金 耐震等調査が行われたため池のうち、対策が必要と判定された池の耐震補強工事等の実施 善師野南地区、割洞第一池地区、塔野地南地区、平谷第一池地区、北洞南池地区 豪雨に対する越水被害の対策 入鹿上用水地区、丹羽排水地区</p> <p>●主な決算の内訳 ○土地改良施設改良工事請負費 73,723,100円 ○愛知県土地改良事業団体連合会負担金 760,000円 ○防災ダム事業負担金 31,158,686円</p>
事業の成果・効果	成沢川地区及び亀割大池地区外において土地改良施設の改修により、施設の機能確保を図った。また、善師野南地区外において、耐震対策が必要と判定されたため池の耐震補強工事等により、耐震化を図った。

II : 個別事業内訳

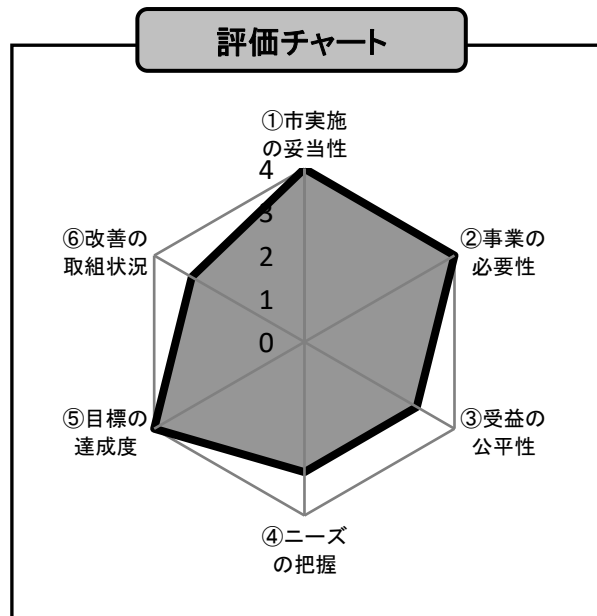
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
土地改良（排水）事務	273	0	273	100%	3	3	3
土地改良施設改修	105,642	77,361	28,281	27%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	105,915	77,361	28,554	27%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		73,216	105,915	91,855
財源内訳	国県支出金	25,803	50,361	29,815
	地方債	26,600	27,000	25,700
	その他	0	0	0
	一般財源	20,813	28,554	36,340
一般財源の割合		28%	27%	40%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市が管理する法定外公共用物である。
②事業の必要性	4	土地改良施設を適正管理することにより、耕作地の水の確保はもとより、洪水抑制機能等の多面的効果が発揮され、市民の安心安全な生活に寄与している。
③受益の公平性	3	用排水路やため池は、農業用のみならず地域排水路や洪水調整機能を有しており、その効果は広範囲に及ぶ。
④ニーズの把握	3	受益者が申請人となっており、同意書をもって事業採択している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	ため池の規模、被害想定のおおきさ等により優先順位をつけて事業の平準化を図っている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	防災重点農業用ため池の劣化状況、地震及び豪雨耐性の評価等を踏まえ、防災工事等推進計画の変更を進めた。
令和5年度に見直しを実施している事項	優先順位により、計画的な整備を進めていく。
今後見直しを検討する事項	県と事業調整を行い、計画的な整備を推進していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
ほ場整備が完了して20年以上経過し、施設の老朽化や土砂の堆積が多くなり維持管理費が増加している。また、今後さらに老朽化が進むため、施設の長寿命化に向けて農業従事者との連携・協働が必要である。	地元要望に対し、事業の適正な選択が必要であるため、十分な現地調査と土木常設員のヒアリングなどにより公平に事業を実施する。また、県と連携し、防災ダム事業等を推進し、ため池の耐震性能向上を図る。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	2	道路新設改良費	306

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	市道新設改良
事業目的	地元要望等に基づき、幹線道路や生活道路の新設、改良等の整備を行うことにより、安心・安全で快適な生活環境の充実を図る。
事業内容	<p>●事業の全体計画 ○地元要望等に沿った事業展開の実施</p> <p>●主な事業内容 ○市道城前線道路整備 道路改良工事 L=113m ○狭あい道路整備 道路改良工事 L=91m ○成田富士入鹿線関連道路整備 道路改良工事 L=77m ○市道羽黒前原台線整備 橋梁撤去工事 ○市道犬山395号線歩道整備 道路改良工事 L=143m ○市道羽黒東50号線外道路整備 道路改良工事 L=111m ○多治見犬山線関連歩道整備 道路改良工事</p> <p>●主な決算の内訳 ○市道城前線道路整備 道路改良工事請負費 54,891,650円 ○狭あい道路整備 道路改良工事請負費 15,408,800円 ○成田富士入鹿線関連道路整備 道路改良工事請負費 8,742,800円 ○市道羽黒前原台線整備 橋梁撤去工事請負費 88,894,300円 ○市道犬山395号線歩道整備 道路改良工事請負費 14,374,000円 ○市道羽黒東50号線外道路整備 道路改良工事請負費 9,801,000円 ○多治見犬山線関連歩道整備 道路改良工事請負費 2,619,100円</p>
事業の成果・効果	地元要望等に基づき、市道城前線、上野18号線（狭あい道路）、塔野地93号線（成田富士入鹿線関連）、犬山395号線、羽黒東50号線外及び神尾1号線外（多治見犬山線関連）では道路改良工事を実施し、市道羽黒前原台線（星和橋）では橋梁撤去工事の実施により、地域の生活環境の改善を進めた。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

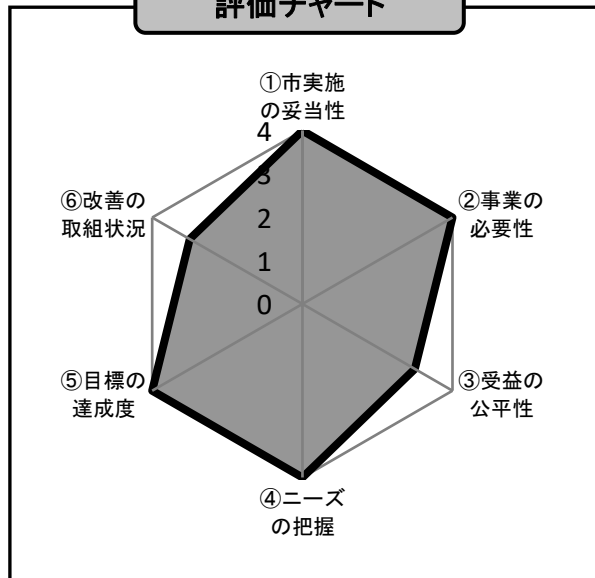
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
市道城前線道路整備	55,978	46,200	9,778	17%	3	3	3
狭あい道路整備	15,723	14,546	1,177	7%	3	3	3
成田富士入鹿線関連道路整備	8,754	4,350	4,404	50%	3	3	3
市道羽黒前原台線整備	145,737	72,104	73,633	51%	3	3	3
市道犬山395号線歩道整備	14,374	9,400	4,974	35%	3	3	3
市道羽黒東50号線外道路整備	12,229	12,229	0	0%	3	3	3
多治見犬山線関連歩道整備	2,619	0	2,619	100%	3	3	3
合計	255,414	158,829	96,585	38%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		241,828	255,414	82,526
財源内訳	国県支出金	103,815	78,378	36,247
	地方債	88,100	74,100	9,900
	その他	3,945	6,351	10,826
	一般財源	45,968	96,585	25,553
一般財源の割合		19%	38%	31%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	地元要望等に基づき、生活環境の改善や交通安全の確保を行うための道路整備であり、市が実施する必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時などの緊急車両等の通行の確保など、地元からの要望に応える事業として道路整備を推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地元の生活道路として、地域住民の要望に基づく事業であるが、不特定多数の住民が利用するため、公平性は高い。
④ニーズの把握	4	土木常設員を通じた地元の要望等に基づいて、事業を推進している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	地元からの要望を精査し、市民の生活環境の改善に資する事業効果の高い路線を選定し、地元と密接に連携して、コストの縮減に努めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	地元調整を密に図り、工事区間等事業効果の高い工事を実施した。
令和5年度に見直しを実施している事項	地元との調整を緊密に図り、より事業効果の高い路線の道路改良を推進していく。
今後見直しを検討する事項	早期に事業調整を行い、より事業性や効果が高い路線の絞り込みを行い、計画的に道路改良を推進していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
地元からの要望が多様化しており、地元との調整に加え、地権者や隣接者の意識が変化してきている中で、交渉等の難易度が上がっている。	事業の実施にあたり、地元や地権者等と事前に調整を図ることにより事業の絞り込みを行い、より事業効果の高い路線の整備を推進していく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	3	橋梁維持費	306

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	橋梁長寿命化
事業目的	道路法で定められる5年に1回の法定点検を実施する。 橋梁長寿命化修繕計画に基づき、損傷度や重要度の視点から優先度が高い橋梁から補修工事を行う。
事業内容	<p>●事業の全体計画</p> <p>○道路の安全性を確保する上で計画的かつ予防的な対応に転換するため、橋梁長寿命化修繕計画を策定し、それに基づき点検及び長寿命化修繕工事を実施する</p> <p>●主な事業内容</p> <p>○橋梁長寿命化点検業務委託（90橋）</p> <p>○橋梁長寿命化修繕計画策定委託</p> <p>○橋梁長寿命化修繕設計委託（寺洞橋、青塚架樋橋）</p> <p>○橋梁長寿命化修繕工事（姥田橋、細目橋）</p> <p>○橋梁長寿命化点検名鉄負担金（上野跨線橋）</p> <p>○愛知県都市整備協会負担金（上野跨線橋）</p> <p>●主な決算の内訳</p> <p>○橋梁長寿命化点検業務委託料 27,124,900円</p> <p>○橋梁長寿命化修繕計画策定委託料 3,960,000円</p> <p>○橋梁長寿命化修繕設計委託料 5,090,800円</p> <p>○橋梁長寿命化工事請負費 18,570,200円</p> <p>○橋梁長寿命化点検名鉄負担金 4,197,100円</p> <p>○愛知県都市整備協会負担金 6,048,526円</p>
事業の成果・効果	道路橋328橋のうち、上野跨線橋外90橋の点検、寺洞橋と青塚架樋橋の修繕設計、及び姥田橋と細目橋の修繕工事を実施した。

II : 個別事業内訳

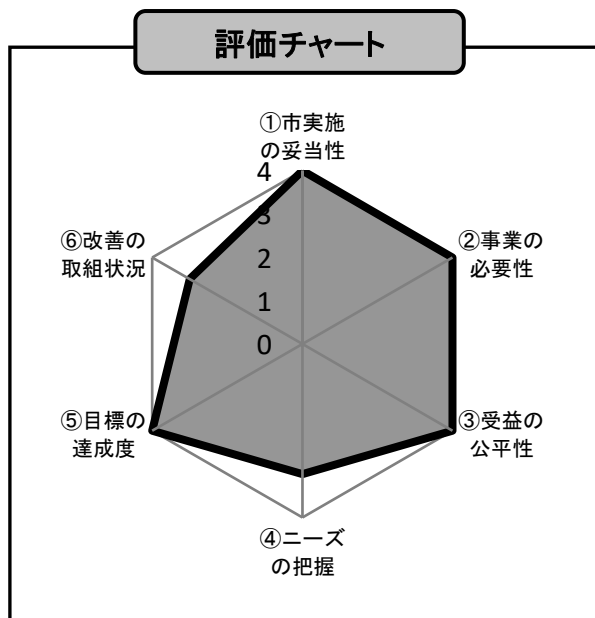
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
橋梁長寿命化	64,992	32,725	32,267	50%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	64,992	32,725	32,267	50%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		74,525	64,992	59,153
財源内訳	国県支出金	38,016	27,125	28,511
	地方債	11,200	5,600	16,600
	その他	0	0	0
	一般財源	25,309	32,267	14,042
一般財源の割合		34%	50%	24%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法に基づき、橋長2m以上の市道橋梁について5年に1度近接目視による定期点検を行わなければならない。
②事業の必要性	4	道路法に基づき、橋梁を点検する事業であり、市民の安全・安心を守るため、必要性が高い事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の対象橋梁について点検を行い、修繕を実施する事業であり、市民全般の安全・安心を守り、不特定多数の市民にサービスを提供する事業である。
④ニーズの把握	3	不特定多数の市民が利用する道路橋の予防保全をするものであり、義務付けられた点検と点検結果に基づく修繕を行うもので、道路基盤整備は大規模災害に備える取組みとして求められている。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	道路法に基づく定期点検を計画どおり進めており、損傷度、重要度などの視点から適正に修繕を進めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	道路メンテナンス事業補助制度要綱の改正に合わせて、橋梁長寿命化修繕計画の更新を行った。
令和5年度に見直しを実施している事項	点検結果に基づき橋梁長寿命化修繕計画の見直しを実施し、長寿命化対策を計画的に実施していく。
今後見直しを検討する事項	市民の安全・安心を守るため、計画的かつ予防的視点で積極的に橋梁の長寿命化対策を推進する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
橋長2m以上の全ての橋梁について5年に1回の近接目視を実施していく必要があり、継続していかなければならない。損傷度の高い橋梁について、優先して修繕をしていかなければならない。	令和元年度からは橋梁点検が2巡目に入り、適正に修繕を進めていく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	1	河川総務費	306

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	河川総務事務
事業目的	適正な河川総務事務の遂行
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 ○河川総務事務 ●主な事業内容 ○河川総務事務 <ul style="list-style-type: none"> ・河川関係団体等負担金 ●主な決算の内訳 ○旅費、消耗品費等 53,231円 ○河川関係団体等負担金 109,000円
事業の成果・効果	各協議会の幹事会、総会に参加し、協議会として国、県に河川事業の陳情をした。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

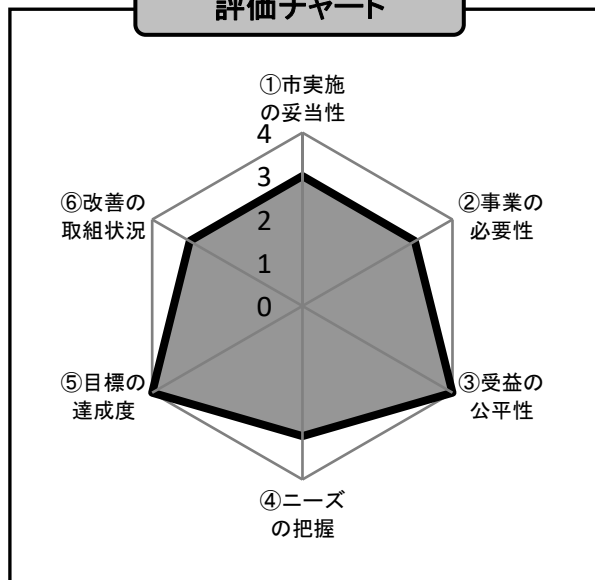
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
河川総務事務	162	0	162	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	162	0	162	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		179	162	267
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	179	162	267
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図るため、市が加盟団体と共に、国、県に事業の必要性を継続的に説いていく。
②事業の必要性	3	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図るため、市が加盟団体と共に、国、県に事業の必要性を継続的に説いていく必要がある。
③受益の公平性	4	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図られることにより安心安全のまちづくりに寄与する。
④ニーズの把握	3	道路冠水軽減等の土木要望により把握している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	繰越金の多い協議会等においては、負担金の見直し等を提言している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	繰越金の多い協議会等については、運営、事業等の精査、負担金の見直し等を進めている。
令和5年度に見直しを実施している事項	繰越金の多い協議会等については、運営、事業等の精査、負担金の見直し等を進めていく。
今後見直しを検討する事項	運営、事業等の精査、負担金の見直し等を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
見直しを行うにあたっては関係市町村及び関係機関との調整が必要となる。	必要に応じ、関係市町村及び関係機関と連携や調整をしつつ、見直しを進めていく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	2	河川改良維持費	308

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	河川改良維持
事業目的	愛知県が施工する砂防堰堤工事に伴い、流末水路を整備し、家屋への被害を抑える。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 ○県が施工する砂防事業に合わせて、流末水路を整備する ●主な事業内容 ○排水対策事業 <ul style="list-style-type: none"> ・排水路詳細設計（大門沢、大門洞） ●主な決算の内訳 ○実施設計委託料 7,095,000円
事業の成果・効果	大門沢と大門洞において、県の砂防事業に合わせた排水路改修に向けて詳細設計を実施した。

II : 個別事業内訳

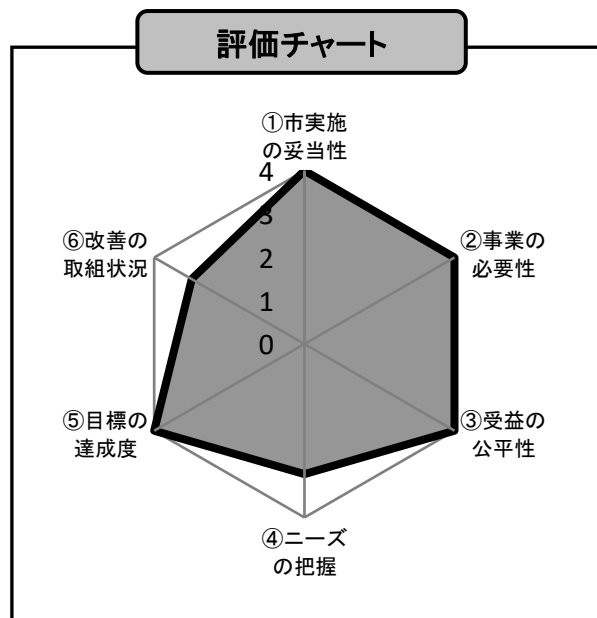
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
排水対策	7,095	0	7,095	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	7,095	0	7,095	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		3,188	7,095	53,900
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	359	0	0
	一般財源	2,829	7,095	53,900
一般財源の割合		89%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	砂防事業に関連する流末水路の整備であるため、市が実施する。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水被害対策施設の整備は、事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	3	道路冠水軽減等の土木要望により把握している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	地元要望等から事業効果や緊急性により優先順位を検討し新規路線を採択している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	県の砂防事業の進捗状況にあわせて、流末水路整備計画の見直しを実施した。
令和5年度に見直しを実施している事項	県など関係機関と調整を図りながら適切に事業を実施する。
今後見直しを検討する事項	地元要望等から事業効果や緊急性により優先順位を検討し新規路線を採択していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
近年、短時間に多量の雨が降る集中豪雨が頻発し、内水対策の重要性は高まっている。	事業効果や緊急性により優先順位を検討し事業を推進する。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	2	都市建設総務費	312

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	都市建設管理
事業目的	急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命を保護するため、必要な措置を講じる。 公共施設の適正な環境管理を推進することで、市街地及び近郊に潤いと憩いを感じる快適な生活空間を保全・創出する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 ○市内の急傾斜地崩壊危険区域において、県が施工する急傾斜地崩壊対策事業の事業費の一部を受益者である犬山市が負担 ○公共施設の適正な環境管理を推進 ●主な事業内容 ○都市建設総務事務 <ul style="list-style-type: none"> ・あいち土木技術・電算連絡協議会負担金 ・土砂災害応急復旧対策費補助金 ○急傾斜地崩壊対策 <ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜地崩壊対策事業負担金 ○アメニティ協会 <ul style="list-style-type: none"> ・運営補助金 ●主な決算の内訳 ○あいち土木技術・電算連絡協議会負担金 1,917,740円 ○土砂災害応急復旧対策費補助金 110,000円 ○急傾斜地崩壊対策事業負担金 6,050,000円 ○アメニティ協会運営補助金 2,889,177円
事業の成果・効果	県事業により、御殿屋敷地区及び片洞地区において急傾斜地崩壊対策工事を実施し、北大門地区及び西古券地区において急傾斜地崩壊対策測量調査を実施した。

II : 個別事業内訳

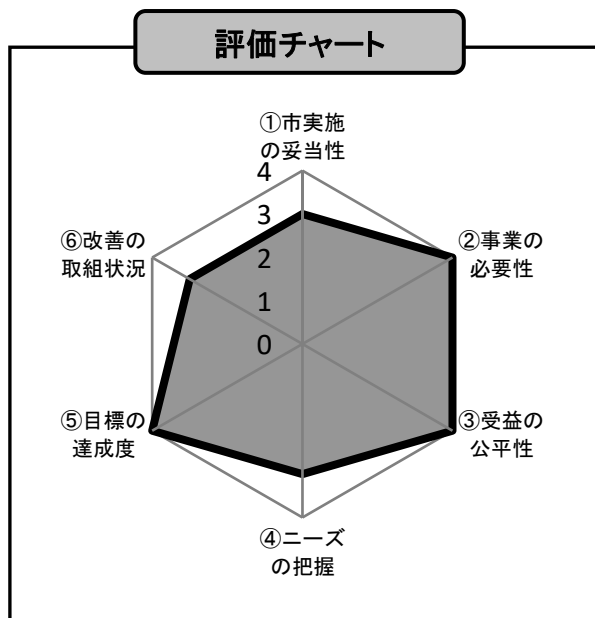
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
都市建設総務事務	3,220	330	2,890	90%	3	3	3
急傾斜地崩壊対策	6,050	0	6,050	100%	3	3	3
アメニティ協会	2,949	343	2,606	88%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	12,219	673	11,546	94%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		15,266	12,219	13,997
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	6,100	0	6,500
	その他	668	673	705
	一般財源	8,498	11,546	6,792
一般財源の割合		56%	94%	49%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市民の生命を守る視点から、県及び市が連携して事業を推進する必要がある。
②事業の必要性	4	急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命と財産を守る、非常に重要度の高い事業である。
③受益の公平性	4	急傾斜地崩壊対策工事によるハード対策とともに、防災マップなどを活用して土砂災害警戒区域を広く市民に周知することで、多くの市民の安全と安心を確保する事業である。
④ニーズの把握	3	土砂災害防止法に基づく危険箇所等について、地元からの要望等を踏まえつつ、対策工事を実施している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	ハード整備とともに、防災訓練、土砂災害応急復旧対策費補助金の周知など広報等を活用し、住民の危機意識向上に努めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	県と緊密な連携を図り、土砂災害対策の積極的な推進に努めた。
令和5年度に見直しを実施している事項	市民の安心・安全を守るため県と連携を強化し、新規の対策工事箇所の採択に向け、積極的に事業を展開できるように努める。
今後見直しを検討する事項	県との連携を強化し、対策工事のさらなる推進を図ると共に、啓発事業についてもより積極的に取り組みを進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命と財産を守る重要事業であるが、対策工事の規模が大きく、対策が必要な箇所の整備に時間を要する。	県に対して、対策工事の実施に向けた要望を積極的に行っていく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	4	街路事業費	318

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	都市計画道路管理
事業目的	市街地通過交通の流入軽減対策及び市街地間の連絡のため、環状線や地域交通軸などの幹線道路を整備する。
事業内容	<p>●事業の全体計画 ○都市計画道路管理 ○富岡荒井線道路整備（南部高齢者活動センター～上小針交差点） 平成19年度～令和4年度</p> <p>●主な事業内容 ○都市計画道路管理 ・道路予定地除草 ・都市計画道路維持補修工事 ○富岡荒井線道路整備 ・普及啓発委託（新設橋梁イベント等） ・道路改良工事（野田地内外） L=770m ・橋梁新設工事（惣作地内外） 桁長L=5.9m ・市道楽田東35号線 道路改良工事 L=66m</p> <p>●主な決算の内訳 ○都市計画道路管理 1,293,282円 ○富岡荒井線道路整備 ・普及啓発委託料 495,550円 ・道路改良工事請負費 209,977,700円</p>
事業の成果・効果	市街地への通過交通の流入軽減及び地域の交通軸となる幹線道路整備を推進するため、富岡荒井線の道路改良工事及び橋梁新設工事を実施した。

II : 個別事業内訳

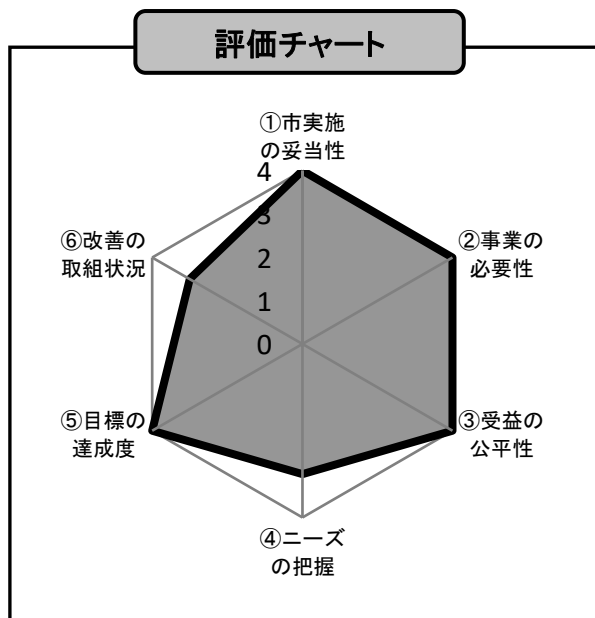
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
都市計画道路管理	1,293	126	1,167	90%	3	3	3
富岡荒井線道路整備	212,821	199,809	13,012	6%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	214,114	199,935	14,179	7%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		245,330	214,114	2,259
財源内訳	国県支出金	87,328	77,193	0
	地方債	133,300	111,700	0
	その他	22,946	11,042	85
	一般財源	1,756	14,179	2,174
一般財源の割合		1%	7%	96%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	都市計画道路整備事業として、市が主体となって実施する事業である。
②事業の必要性	4	交通渋滞の緩和及び地域の発展に資する重要事業であり、早急に整備推進することが必要な事業である。
③受益の公平性	4	幹線道路の整備は不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	市民意識調査において、市内の道路の安全性や快適性について調査を実施しており、道路整備の推進について、市民ニーズは高い。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	道路改良工事について、効率的に工事が進められるように努めており、用地についても課題を精査し積極的に買収を進めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	富岡荒井線は、予定を前倒して11月末までに開通した。
令和5年度に見直しを実施している事項	都市計画道路未整備路線の楽田桃花台線は、現在の道路用地幅による拡幅に向けて、整備促進を図っていく。
今後見直しを検討する事項	都市計画道路の未整備路線について、整備促進を図っていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
都市計画道路の未整備路線について、順次整備を進める必要がある。	継続して整備を推進していくため、関係機関と調整を図っていく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	5	土地区画整理費	318

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	地区計画道路整備
事業目的	道路等の都市基盤施設が未整備である地区計画決定した地区について、道路整備を進め、良好な住環境を形成する。
事業内容	<p>●事業の全体計画</p> <p>○橋爪五郎丸地区計画において、地区計画決定した道路計画に基づき順次整備を進める</p> <p>●主な事業内容</p> <p>○測量・嘱託登記業務委託 市道五郎丸128号線外</p> <p>○実施設計委託 市道五郎丸50号線外</p> <p>○道路改良工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市道五郎丸50号線外 L=132m ・市道橋爪49号線外 L=112m ・市道橋爪55号線外 L=77m <p>○用地購入 市道橋爪79号線外</p> <p>●主な決算の内訳</p> <p>○測量・嘱託登記業務委託料 5,897,505円</p> <p>○実施設計委託料 11,440,000円</p> <p>○道路改良工事請負費 33,881,100円</p> <p>○道路改良工事用地購入費 15,792,350円</p>
事業の成果・効果	地区計画決定をした地区について、道路計画に基づき用地買収を進め、市道五郎丸50号線外においては、道路改良工事を実施した。

II : 個別事業内訳

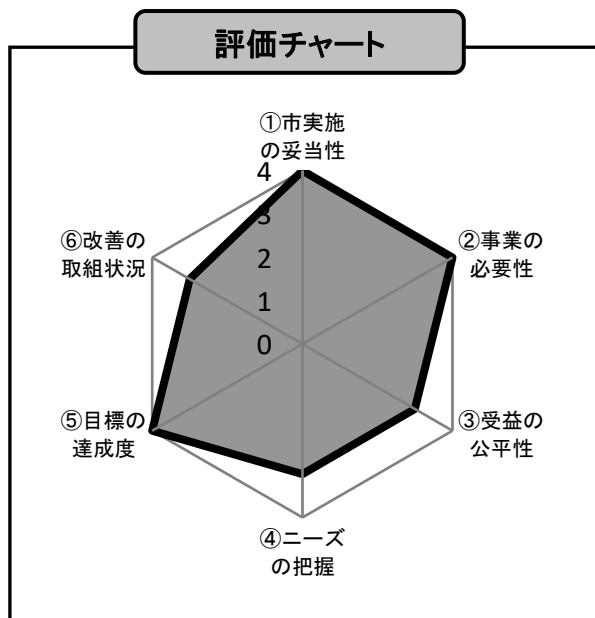
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
地区計画道路整備	71,161	60,755	10,406	15%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	71,161	60,755	10,406	15%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		50,406	71,161	71,257
財源内訳	国県支出金	22,535	31,955	13,640
	地方債	17,300	28,800	11,400
	その他	10,571	0	0
	一般財源	0	10,406	46,217
一般財源の割合		0%	15%	65%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	地区計画決定に基づき、良好な住宅地の形成を進めるため、市が主体となって道路等の基盤整備を推進する必要がある。
②事業の必要性	4	都市基盤が未整備である地区計画決定をした地区の整備を進めることは、定住促進に資する重要な事業であり、推進する必要性は高い。
③受益の公平性	3	地区計画決定に基づき整備する事業であり、地域住民を対象としていることに加え、定住促進に資する事業として、多数の市民のサービス向上につながる事業である。
④ニーズの把握	3	市民意識調査においても、道路の安全性や快適性に対する市民ニーズは高く、市民からの問い合わせや要望等もあり、定住促進に資する事業として重要度の高い事業である。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	住宅建築の促進につながる事業効果が高い路線を選定して路線整備を進めているが、今後更なる整備促進をしていくため、より積極的に買収を進める方針の検討を進めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	事業効果が高い計画路線の整備を図ると共に道路後退箇所の買収していく方針決定をした。
令和5年度に見直しを実施している事項	地区計画区域内の狭い道路については、社会資本整備総合交付金を活用しつつ、地権者交渉等をより効率的に推進することで事業の進捗を図る。
今後見直しを検討する事項	早期の整備促進に向け、道路後退箇所については計画段階から地権者協議を進め、より効率的に事業用地の買収を行うことで、整備促進につなげていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
用地買収及び整備を積極的に行っているが、計画区域全体としては、依然として整備率は低い水準にある。	定住促進に資する計画路線の整備を促進するため、社会資本整備総合交付金を活用し、より積極的に用地買収を進める。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	6	公園管理費	320

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	沿道（堤防）桜並木管理
事業目的	桜を活かした快適な空間を保全・創造するため、桜並木の適正な維持管理を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 ○道路及び河川敷の桜並木の適正な維持管理 ●主な事業内容 ○沿道（堤防）桜並木管理 <ul style="list-style-type: none"> ・桜並木の支障枝及び枯枝の剪定、危険木の間伐、樹木診断、消毒 ・桜樹木伐採に伴う舗装修繕工事 ●主な決算の内訳 ○桜並木剪定業務委託料 17,284,300円 ○桜並木薬剤散布業務委託料 376,618円 ○樹木診断事業委託料 1,353,000円 ○舗装修繕工事請負費 88,000円
事業の成果・効果	市内の桜並木約2,800本について、桜樹木診断の結果に基づき、適正な剪定・管理を行い、桜並木を保全することで、観光資源や潤いある歩行者空間に資する景観を保全するとともに、老木化したり、道路交通上支障となる桜については、剪定等を行い、安全の確保に努めている。

II : 個別事業内訳

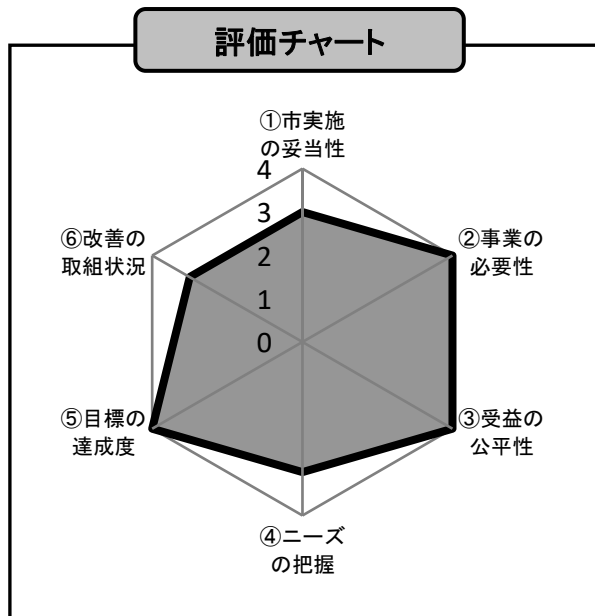
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
沿道（堤防）桜並木管理	19,178	16,140	3,038	16%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	19,178	16,140	3,038	16%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		17,900	19,178	21,348
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	16,553	16,140	3,222
	一般財源	1,347	3,038	18,126
一般財源の割合		8%	16%	85%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市内の桜並木について、景観及び交通上の安全確保の視点から、市が主体として管理を実施していかなければならない。
②事業の必要性	4	観光資源や市民の憩いの場として、桜並木の景観を保全していく必要がある。加えて、老朽化した桜が交通安全上の支障となることから、安全・安心のまちづくりの観点からも継続が必要な事業である。
③受益の公平性	4	市民の健康づくりに資する遊歩道や犬山城周辺、五条川沿いの景観など、不特定多数の市民が利用し恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	桜並木の保全・適正管理に対する市民要望は強く、市民要望等を踏まえつつ、取り組みを進めている。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	桜樹木診断と連動して老朽化した危険木の伐採等に加え、桜樹木の保全・延命化に資する剪定や交通支障木の剪定を進めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	老朽化した危険木の伐採・剪定に加え、交通支障となる桜樹木の保全に資する適切な剪定に努めた。
令和5年度に見直しを実施している事項	桜樹木診断に基づく危険木の剪定管理に加え、桜樹木の保全に資する剪定管理について、より効率的かつ適切に実施できるよう、診断、剪定を実施している事業者と連携を緊密に行っていく。
今後見直しを検討する事項	桜樹木診断結果を基に実施する桜並木の管理委託業務をより効率的かつ適切にできるよう内容の精査を引き続き行っていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
桜並木については、老朽化が進み、管理コストは増大していくことが想定される。老朽化した桜樹木について、安全性を確保しつつ、保全、延命化を図っていく必要がある。	桜樹木診断に基づき、効率的な管理に努めるとともに、老朽化した桜樹木の保全、延命化に努めていく。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	1	1	農業用施設災害復旧費	398

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	災害復旧
事業目的	農業用施設における災害発生時の対応
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 ○突発的な自然災害において被害が発生した農業用施設の機能回復 ●主な事業内容 ○災害復旧測量調査委託 <ul style="list-style-type: none"> ・宮池下池 のり面復旧設計 ○災害復旧工事 <ul style="list-style-type: none"> ・宮池下池 ブロック積擁壁工 L=12m ●主な決算の内訳 ○災害復旧関連委託料 1,991,000円 ○災害復旧事業工事請負費 7,771,500円
事業の成果・効果	大雨による農業用施設災害復旧工事を実施した。

II : 個別事業内訳

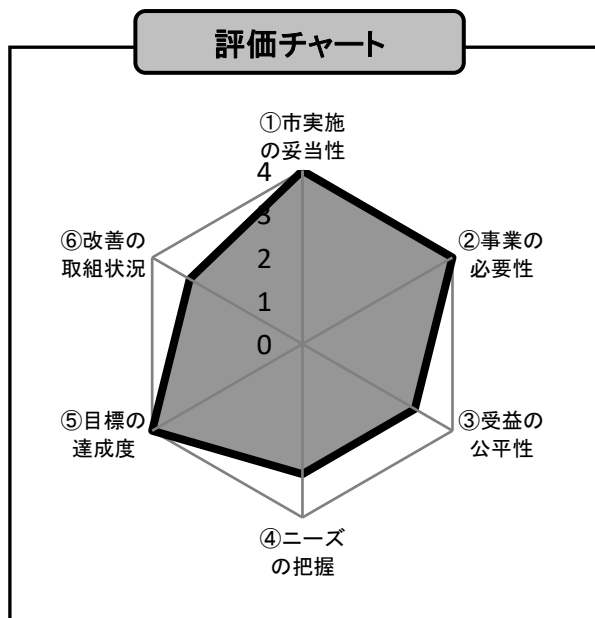
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
農業用施設災害復旧	9,763	4,620	5,143	53%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	9,763	4,620	5,143	53%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		-	9,763	12,000
財源内訳	国県支出金	-	4,620	0
	地方債	-	0	0
	その他	-	0	0
	一般財源	-	5,143	12,000
一般財源の割合		-	53%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	災害時に、早期に復旧し、農業用施設の早期復旧を図る必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時の早期復旧など、地域からの要望に応える事業として推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地域の生活環境を確保するため、地域住民の要望等を加味した事業であるが、不特定多数の住民への影響が大きいため、公共性は高い。
④ニーズの把握	3	パトロールや通報、土木常設員を通じた地域の情報などに基づいて、事業を推進している。
⑤目標の達成度	4	災害発生時の対応を適切に実施した。
⑥改善の取組状況	3	災害発生時に早期の現場把握及び対応に努めた。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	災害復旧工事において、県補助金の採択に向けて調整を図り、一部財源を確保した。
令和5年度に見直しを実施している事項	引き続き、災害発生時の早期対応を目的として予算確保に努める。
今後見直しを検討する事項	愛知県と早期に調整を図り適切な対応を求めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害発生時のパトロールや通報、地元からの情報などにより災害箇所を把握するが、災害の状況によっては発見が遅れる場合もある。	災害発生時には地元と協力しながら災害箇所の確認及び対応を適切に進める。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	2	2	河川災害復旧費	398

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	災害復旧
事業目的	河川施設における災害発生時の対応
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 ○突発的な自然災害において被害が発生した河川施設の機能回復 ●主な事業内容 ○災害復旧工事 <ul style="list-style-type: none"> ・丸山川 土砂撤去 ●主な決算の内訳 ○災害復旧事業工事請負費 220,000円
事業の成果・効果	大雨による河川災害復旧工事を実施した。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

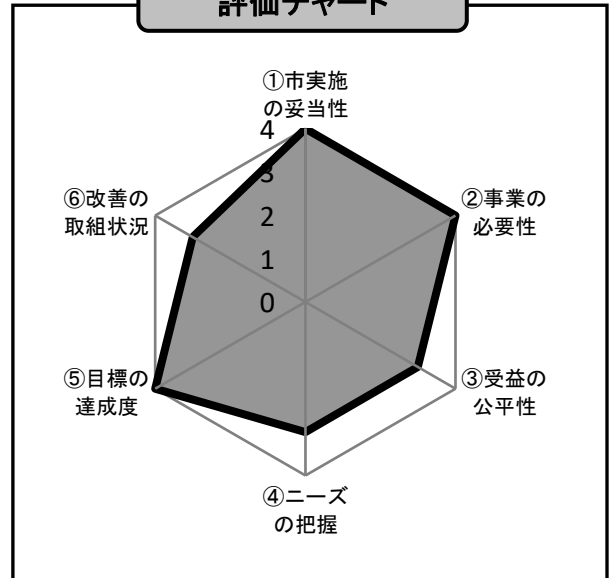
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
河川災害復旧	220	0	220	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	220	0	220	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		145	220	12,000
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	145	220	12,000
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	河川管理者として、災害時に、早期に復旧し、二次災害を防ぐ必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時の早期復旧など、地域からの要望に応える事業として推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地域の生活環境を確保するため、地域住民の要望等を加味した事業であるが、不特定多数の住民への影響が大きいため、公共性は高い。
④ニーズの把握	3	パトロールや通報、土木常設員を通じた地域の情報などに基づいて、事業を推進している。
⑤目標の達成度	4	災害発生時の対応を適切に実施した。
⑥改善の取組状況	3	災害発生時に早期の現場把握及び対応に努めた。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	災害発生時に早期対応が可能ないように当初予算の確保に努めた。
令和5年度に見直しを実施している事項	引き続き、災害発生時の早期対応を目的として予算確保に努める。
今後見直しを検討する事項	愛知県と早期に調整を図り適切な対応を求めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害発生時のパトロールや通報、地元からの情報などにより災害箇所を把握するが、災害の状況によっては発見が遅れる場合もある。	災害発生時には地元と協力しながら災害箇所の確認及び対応を適切に進める。

令和4年度 決算説明書 / 事業評価シート

企業会計名	決算書(P)
下水道事業会計	-

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	下水道事業 資本的収支事業（雨水）
事業目的	ゲリラ豪雨等による道路冠水などの被害の軽減及び平成16年に特定都市河川浸水被害対策法が施行され、平成18年一級河川新川流域が特定都市河川流域に指定されたことに伴う対策事業を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 ○五ヶ村排水区整備 <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度 用地買収、調整池工事 ・令和5年度 調整池工事 ・令和6年度～ 函渠工事 ●主な事業内容 ○雨水管路建設費 <ul style="list-style-type: none"> ・調整池整備工事 ・物件移転補償 ○営業設備費 <ul style="list-style-type: none"> ・用地購入 ○企業債償還金 ●主な決算の内訳 ○雨水幹線築造工事請負費 152,883,300円 ○物件移転補償金 8,896,101円 ○施設用地購入費 172,619,840円 ○公共下水道債償還元金 68,198,870円
事業の成果・効果	ゲリラ豪雨等による道路冠水などの被害軽減対策事業実施に向けて調整池の用地取得及び整備工事を実施した。

II : 個別事業内訳

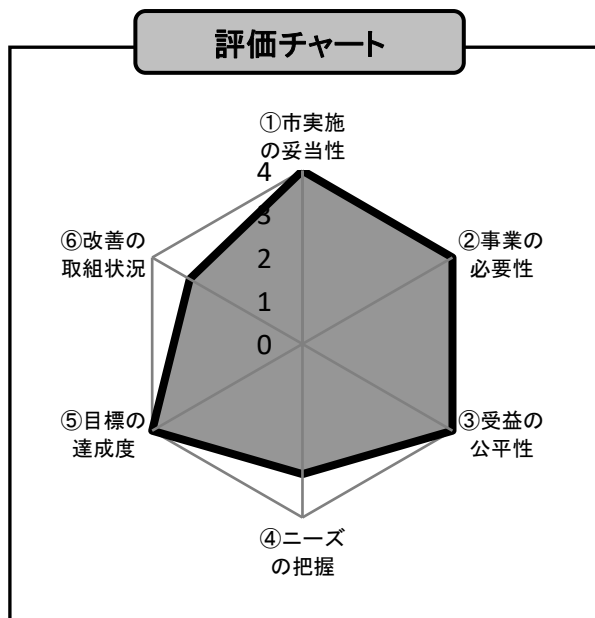
(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務の効率化
雨水管路建設費	162,411	162,411	0	0%	3	3	3
営業設備費	172,620	172,620	0	0%	3	3	3
企業債償還金	68,199	68,199	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	403,230	403,230	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R3決算	R4決算	R5予算
		127,038	403,230	315,857
財源内訳	国県支出金	31,500	164,000	100,000
	地方債	46,300	164,000	145,900
	その他	49,238	75,230	69,957
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	特定都市河川浸水被害対策法に基づく総合治水対策であり、市が主体となって実施する事業である。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水対策施設の整備は、市民福祉の向上に資する事業であり、実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	3	道路冠水軽減の土木要望により把握している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	事業の進捗状況に応じて、事業計画等の変更を進めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和4年度に見直しを実施した事項	事業の進捗を図るため、令和5年度予定を一部前倒して、調整池整備工事を進めた。
令和5年度に見直しを実施している事項	調整池整備を進め、供用開始をしていく。
今後見直しを検討する事項	調整池の整備を進め、必要に応じて今後の事業計画の見直しを行う。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和4年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
五ヶ村排水区については、事業費が大きくなるため、社会資本整備総合交付金を活用するなど、財源を確保する必要がある。	事業の進捗状況に応じて、適切な事業内容及び事業期間を設定し、交付金等により財源を確保していく。